

○十七番（平井 一三君）登壇 自民党県議団、平井一三であります。通告に従いまして、台北国立故宮博物院展の開催について質問をいたします。

皆さん御存じのように、ことしの十月七日から十一月三十日に、九州国立博物館で台北国立故宮博物院展が開催されます。東京国立博物館での六月二十四日から九月十五日までの開催に引き続き開催されるものでありますけれども、特に故宮博物院を代表する門外不出の収蔵品、翠玉白菜が東京国立博物館で、肉形石、通称豚の角煮が九州国立博物館で、おのおの二週間限定で初公開されます。今回の展示品は、台湾でもなかなか見られないものであるとのこと。地元の議員といたしましても、ぜひ皆様に足を運んでいただければと思っていますところであります。

さて、今回の故宮博物院展の九州国立博物館での開催は、福岡県台湾友好議員連盟の加地邦雄会長、顧問である藏内勇夫自民党県議団会長、吉村敏男民主・県政県議団会長を初めとした議員連盟で、一昨年十月に台湾を訪問し、呉敦義副総統、故宮博物院馮明珠院長らと面会して強く要請していたものであります。昨年一月に台湾を訪問した小川洋知事と松本國寛議長ら福岡・台湾経済文化交流ミッションの一行に対し、馬英九総統及び馮明珠故宮博物院長から直接、福岡での開催決定をいただいたものです。これは、当時の亜東関係協会廖了以会長、台北駐福岡経済文化弁事処の曾念祖処長の御支援、御指導に支えられたものでもあります。このように、今回の故宮博物院展は、福岡県議会、福岡県を初め多くの関係者の夢と思いが形になったものであり、日台の友好交流関係を象徴する記念碑的事業として、必ず成功させねばならないと思っております。

そこで、まず初めに、県はどのような広報活動を行い、その結果どの程度の来場者数を見込まれているのかをお聞きしたいと思います。

〔松尾議長退席 長副議長着席〕

今回は、東京開催から福岡開催と継続した開催日程が組まれており、翠玉白菜は東京、肉形石は福岡に展示されます。国民は両方に関心があり、両方見たいとの思いもあるでしょう。福岡と東京がそれぞれ単独で開催の広報を行うより、一連の展示会として連携した取り組みを行うことで、より認知度も上がり、相乗効果が期待できるものと思われまます。また、福岡と東京との往来により、経済的効果もさらに期待できるものと考えます。東京との連携、東京開催をう

まく福岡の広報活動に組み入れた取り組みが必要であると思います。知事の考えをお聞きしたいと思います。

国博の年間来場者数は、過去最大で百八十八万人を記録したことがあり、当初想定よりも早く平成二十四年十月に、総入場者数一千万人を記録しました。しかし、最近では平成二十三年度に八十八万人と初めて百万人を下回りました。平成二十四年度に百二十三万人とふえたものの、今年度は九十万人台にとどまるとも聞いております。これは、特別展の集客力の影響が大きいものの、国内の来訪者が一巡したことがその一因であるとも言われております。

国博は太宰府天満宮を初め福岡県のいろいろな文化、観光施設と一体となって、県の文化、観光の発信基地としての役割を果たしていくとともに、経済的な効果も発揮していくことが求められております。今後も現在のような役割を果たし、活気を維持していくためには、年間来場者数百万人を一つの目標に企画、運営を行っていくことも必要であると思っております。

そのためには、一つは、今回のような特別展を開催することでリピーターを初め国内の来訪者をふやすことであり、もう一つは、今後海外からの来訪者をふやしていくことであります。今回の展示会は、国博がアジアに開けた博物館として、海外に向けてアピールする絶好の機会であります。日本の歴史や文化を認識してもらうチャンスでもあります。台湾からも見に来たいという声を聞きます。近隣アジア諸国からの来訪も期待されます。今回の展示会に多くの外国人に来ていただき、国博と福岡県のすばらしさをそれぞれの国に広めてもらう取り組みが必要であります。この機会に、今まで以上に海外に向けた広報に力を入れるべきと考えますが、いかがでしょうか。

しかし、いつ入場できるか予定が立たないようですと、ツアーに組み入れることができません。ツアーの対象にもなり得ません。そこで海外からのツアー客用の特別入場枠を設けるなどの工夫を行い、旅行会社に対し、海外から多くの方に来ていただく働きかけを行う必要があると思いますが、知事としての考えと取り組みについてお聞きをいたします。

多くの方に来ていただくことは、今回の故宮博物院展の目的の一つであります。しかし、多くの方にお越しいただくと、今度は混雑の解消と安全対策が課題となります。私も過去の阿修羅展のときに二時間ほど場外で並び、場内でも

大変な混雑を経験したことがあります。肉形石の展示期間が二週間であることから、特にその期間は相当な混雑が予想されます。先日の緑友会の代表質問においても触れられましたけれども、安全対策、交通対策等について、改めて知事の考えをお聞きいたします。

限られた期間内でより多くの閲覧時間を提供するためには、休館日を減らす、あるいは仕事帰りにも来訪できるように夜間にも開館するなどの対応も必要であると思います。また、何時間も立ったまま場外で長蛇の列をつくって待たせるのは、高齢者に限らず大変つらいものであります。時間を有効に使っていただくために、入場整理券を発行し、順番が来るまでは天満宮や竈門神社、周囲の商業施設を訪れてもらう、あるいは同時開催のイベントに参加してもらうなどの工夫が必要であると思います。過去の大型イベントの事例等も参考にしながら、県としてこのような取り組みができないのかをお聞きいたします。

さらに、今回の故宮博物院展を福岡県の経済振興につなげていくためには、近隣自治体や商工会、観光協会などの団体による連携イベントの開催や観光振興につながる仕掛けが必要であると思います。県として、近隣自治体への積極的な働きかけを計画しているのかをお聞きいたします。

このようなイベントと故宮博物院展をうまく組み合わせ、回遊性を持たせることで、交通渋滞の緩和にもつながると期待されますが、県としての対応をお聞きいたします。

今回の博物院展は、開催に至るまでの経緯からおわかりのように、単なる貴重な収蔵物の展示会ではなく、台湾と日本の歴史を理解し、日台の友好交流関係を象徴する記念碑的事業であります。あす三月十一日は東日本大震災から丸三年となります。その大震災の復興のために、義援金など二百億円を超えると言われる寄附をいただいた台湾と日本の友好関係が築かれている中で、若い人が台湾に対する理解を深めるよい機会にしていかなければならないと思っております。

そこで、日本と台湾の歴史や友好関係について、この機会に若者の教育にも生かしていく必要があると考えますが、県の取り組みについてお聞きをいたします。

最後に、県が開催するイベントの計画はないのかをお聞きいたします。また、

イベントを計画されているのであれば、その中で、今述べました日本と台湾に関する歴史や友好関係について、しっかりと伝えていく取り組みができないかをお聞きしたいと思います。

これまで、故宮博物院展開催に向けて御尽力されました県及びその関係者、県議会、そして台湾の関係者の皆様の思いに報いるためには、多くの方に展示会に来ていただき、訪れた方が感動を覚え、そして台湾を訪問したいという思いを抱いていただけることが必要であろうと思っております。知事にもしっかりと頑張ってくださいをお願いし、十月からの故宮博物院展の成功を祈念して、質問を終わります。（拍手）

○小川知事答弁

○知事（小川 洋君）登壇 お答えを申し上げます。

まず初めに、台北故宮博物院展に向けた広報活動と来場者数についてでございます。今回の展覧会は、九州国立博物館、そして福岡県の名を広く内外にPRをする絶好の機会であると考えます。このため、国内に対しましては、県のホームページ等、また海外に対しましてはアジアンビートなどの多言語の広報媒体による広報でありますとか、海外の旅行業者に対する説明会などを行いまして、集客に取り組んでまいります。御提案のありました海外ツアー客用の特別入場枠についてでございますが、公平性の問題もあることから、どのような工夫ができるのか、他の主催者と協議をしております。

来場者数の見込みについてでございますけれども、過去には、お触れになりました七十万人を記録いたしました阿修羅展のように、大変多くの方々が来場した展覧会がございました。今回の展覧会は、これまで門外不出とされました肉形石も展示されますことから、過去有数の来場者数になることを大いに期待をし、そのための準備をしたいと思います。

台北故宮博物院展開催に伴う東京との連携した広報についてでございます。今回の展覧会は、東京国立博物館においては翠玉白菜、九州国立博物館におきましては、今申し上げました肉形石という二つの門外不出の世界の秘宝が展示をされる予定でございます。この二つの展覧会は、議員が御指摘になりました

ように、開催時期が異なります。相互に連携し、広報を行うことによりまして、観覧者を双方に招き入れるという相乗効果が期待できると思います。このため、両博物館におきまして、既に始めておりますが、共通のパンフレットを作成するなど、一体的な広報を行うことといたしております。

台北故宮博物院展開催に向けた安全対策、交通対策でございます。アクセスにつきましては、まず公共交通機関の利用、パーク・アンド・ライド駐車場の活用を促進してまいります。また、九州国立博物館の駐車場につきましては、平成二十三年度に九十八台増設をし、今三百二十二台としたところでございます。今回の展覧会開催に向けましては、太宰府市、筑紫野市など周辺の地域を含めた駐車場情報の提供を行うなど、交通混雑の緩和に取り組んでまいります。また、館内につきましても、人数制限や案内スタッフの増員による来場者の安全な誘導と、そういった受け入れ態勢の強化を図りまして、安全対策に取り組んでまいります。さらに、開催期間中の時間延長や休館日の縮減といった観覧客を分散させる方策や、整理券の活用といった、来場者が待ち時間を有効に活用できるようにするための方策につきましても、他の主催者との間で協議をしてまいります。

台北故宮博物院展を観光振興につなげる取り組みについてでございます。博物院展を訪れられるお客様に、周辺地域を含めて滞在し、また周遊していただきますことは、観光資源をふやし、経済効果を拡大すること、あるいは御指摘にありましたように、来訪者の分散化にもつながるものであると考えております。九州国立博物館の周辺には、太宰府天満宮を初め大宰府政庁跡、竈門神社、九州歴史資料館、大刀洗の平和記念館などの史跡や施設が数多くございます。黒田官兵衛ゆかりの秋月、二日市温泉などの観光資源といったものも豊富でございます。また、太宰府市周辺の地域では、平成二十六年から二十七年にかけて、千三百五十周年を迎えます水城あるいは大野城、そういった特別史跡をテーマにシンポジウム、ツアーというものが計画をされているところでございます。博物院展とあわせまして、こうした観光資源やイベントを活用した観光ルートというものをつくり上げ、県の観光情報サイトクロスロードふくおかや県の広報紙等で積極的に情報発信をしてまいります。また、県外で開催されます観光説明会等におきましても情報提供に努め、そのPRに努めてまいります。このような取り組みにつきまして、市町村を初め関係者と一体となって推進をすることによって効果を上げたいと考えており、これによりまして、博物館を訪れられるお客様の周遊を促し、地域の観光振興につなげてまいります。

次に、台北故宮博物院展を契機とした若者に対する教育についてでございます。今回の展覧会は、若者にとりましても、台湾への関心が高まり、その歴史

や文化を学ぶ契機になるものと考えております。このため、県内の小中高等学校に対しまして展覧会の観覧というものを促しますとともに、教育活動の中で、今回の展覧会の開催が、台湾について我々が学ぶ格好の機会となるよう働きかけをしてまいります。

台北故宮博物院展に合わせた関連イベントの開催についてお尋ねがございました。過去、九州国立博物館で開催をいたしました大ベトナム展、またベルリン国立美術館展におきましては、その国の文化や歴史を紹介する講演会あるいは民俗楽器によるコンサートといったイベントを、展覧会に合わせ博物館内で開催をしてきております。今回の故宮博物院展におきましても、日本と台湾との交流の歴史や、台湾の文化等にちなんだ関連イベントの開催を検討してまいります。